令和５年３月３１日

都立光明学園 統括校長

田村　康二朗

令和４年度 東京都立光明学園 学校経営報告

本校は、肢体不自由教育部門（小・中・高３学部）と病弱教育部門（小・中・高３学部）の２部門を２拠点（本校・分教室拠点）５指導形態（本校地域から通学生への教育、本校からの在宅訪問教育、寄宿舎を利用した通学生への教育、そよ風分教室での教育、分教室拠点からの病院訪問教育）を内包する新たなタイプの併置型特別支援学校として新規開校し６年目を終える。１００年を刻む学校となるための基盤を強固に培うべく、開校後の３年間（体制構築期）を限定し、「最重点経営目標」の上位に**「特別重点目標」**を独自に定めた。この特別重点化が功を奏し、構築期の各数値指標を含め到達目標を達成できた。

４年目を迎えた令和２年度は、新たな中期「学園充実期」の初年度であったが、コロナ禍対応を最優先したことから、学園充実期を１年間延長し、４年計画の初年度とし、未着手事項は令和３年度（学園充実期２年目）に継続することとした。昨年１月には、学園構想に基づく新校舎の第２弾「新北棟」を供用開始し、新たな教育環境への円滑な移行を重要テーマの一つとした。そして結果としては、コロナ禍にあって感染予防策を基盤とした制約を打破する創意工夫を凝らした学習開発の３年目ともなった。令和４年度は、都の医療的ケア推進諸事業を展開する一方で働き方改革の一層の推進にも努めた。開校以来６回目を迎えた全国公開研究会テーマ**"最新の職場環境から発する６つのアクション　～ここで働きたい学校を目指して～"**では６チャンネル同時オンライン方式を用いたところ、全国から 340 名の参加者を迎え、校内教員 150 名と共に３全体研修・10 セミナー・１ワークショップ、多数の教材発表を含むプログラムを展開し、率直な建設的意見とともに「自校の向上意欲が喚起された」などのフィードバックを得た。これらは、本校教員がさらなる１年間に立ち向かう活力となっている。

（※以下、肢体不自由教育部門をＳ部門、病弱教育部門をＢ部門と表記する。）

１ 今年度の取組と自己評価　" KOMEI-GAKUEN Bright hopes REIWA Ⅲ"

（1）　教育活動としての取組と自己評価（特別重点目標に関する数値目標と実績値）

最重点目標１　学園生が一体感と誇りをもてる教育活動等の展開　自己評価　○

数値目標　全関係者評価「学園としての良さを創出している」　≧　９０％　⇒　❶❷❹❺84％・❸93％

方　　策　学園生としての誇り実感プロジェクト　＜主管：経営会議、学習指導部、経営企画室＞

❶ 併置型学園として両教育部門が相互理解できる教育活動を展開した。

⇒行事・検定・補習・進路等の合同学習機会を設けるとともに、教員の多様な専門性を両部門で相互活用した。

❷ アートギャラリーの一層の活用や光美･光書展開催を含むアクションを年間通じて推進し、学園の一体感を醸成した。

❸ ＨＰやツイッター・リーフレット・掲示板他の広報充実により、学園情報を日常的に積極発信した。

❹ 北棟の最新環境を初めて年間を通じて供用し、その機能を存分に活用した新たな教育活動等を展開した。

❺ 国内唯一の歴史資料室の整備し、見学公開に備えた。また 90 周年記念に向けた資料整理を進めた。

最重点目標２　効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上　自己評価　▲

数値目標　教職員評価「ﾗｲﾌ･ﾜｰｸﾊﾞﾗﾝｽを踏まえた業務改革を推進している」≧ ８５％　⇒　教職員 48%、委員 100%

方　　策　運営効率化プロジェクト：３年次　＜主管：経営会議、総務部、教務部、経営企画室＞

❶ 時間外勤務を端末で各自が把握できるシステムに更新され、自己調整できる機会が提供された。

❷ 働き方改革につながる業務改善提案の積極導入により効率化を進めた。

❸ 主幹・指導・主任教諭等の職責を踏まえた業務目標の明確化するために、業務ミッション一覧を共有した。

❹ 学年主任がリーダーシップを発揮して行う学年経営に基づく教育充実を図った。

❺ 主幹級教員がリーダーとなったプロジェクト（校内横断的総合企画）を推進した。

最重点目標３　専門性ある人材を活用した教育の充実　自己評価　○

数 値 目 標　全関係者評価「専門人材活用が教育充実に繋がっている」≧a ９５％ ⇒ 全関係者４８％、委員９９％

方　　策　専門人材活用プロジェクト　＜主管：経営会議、学習指導部、研究研修部＞

❶ Ｓ部門：学習指導アドバイザーによる継続的授業者支援や専門家活用による個に応じた指導改善を進めた。

❷ 両部門：個々が自由に選択して学べる学校契約のオンライン講座受講を活かした授業づくりを奨励した、

❸ 両部門：専門研修を通して学校介護職員・病弱教育支援員の専門性を高めて教員との協働の質的向上を図った。

❹ 両部門：心理面の支援に重点をおく教育相談体制の充実（専門研修の実施、専門家による教育相談）

❺ Ｂ部門：専門家による研修動画等による研鑽を生かし、病弱教育の特性を踏まえた授業づくりを進めた。

最重点目標４　授業力の向上　☆個別学習等の「個に応じた学習指導」の力量形成　自己評価　○

数 値 目 標　全関係者評価「個別指導が充実し基礎学力が向上している」 ≧ ９０％ ⇒ 全関係者７２％、委員８６％

方　　策　基礎体力向上指導を含む授業力向上プロジェクト＜主管：学習指導部、教務部＞

❶ 授業者支援会議で得たノウハウの蓄積による改善策共有・活用・発信（改善手法解説ＤＶＤ、改善集）した。

❷ 専門家・指導教諭等を活用した指導実技型授業力向上研修（初任・転入教職員対象研修）を実施した。

❸ 指導に関する説明を授業参観ガイド作成・事前配布、読み手である学園生向け通知表の工夫等を通して徹底した。

❹ 卓越した専門家を活用して学習指導要領に基づく個別学習＜国・数基礎段階＞による日々の学びの蓄積を奨励した。

❺ 教材充実によって「分かり易く・意欲を引出す」指導の工夫が進むように、教材作成アドバイザーの活用を進めた。

最重点目標５　専門性発揮・向上による特色ある教育の推進　自己評価　○

数 値 目 標　委員評価「専門性を発揮した教育活動が展開されている」 ≧ ９０％ ⇒ 委員・全関係者８６％

方　　策　専門性発揮プロジェクト ＜主管：教務部、学習指導部、支援部＞

❶ 両部門：図書環境とシステムを整備した上で全校読書月間（学期１回）等の活動を通して読書習慣が定着だした。

❷ 両部門：学校２０２０レガシーとしてのボランティア活動「駅の除菌・駅を花で飾ろう」が定着した。

❸ 両部門：GIGA 端末や高等部一人１台端末を、授業や教育活動で積極活用するなど、ICT 教育を推進した。

❹ Ｂ部門：プログラミング学習等を充実させ、全国プログラミング選手権で第３位に入賞に繋がった。

❺ 両部門：検定挑戦への意欲喚起と支援により、各種検定（ワープロ、ソフト操作、漢検、英検他）に多数が合格した。

最重点目標６　学園生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築　自己評価　◎

数 値 目 標　保護者評価「緊急連絡の運用も含め防災面での改善が進んでいる」≧ ９５％ ⇒ 保護者９２％、委員１００％

方　　策　安心・安全プロジェクト　＜主管：生活指導部＞

❶ 次年度宿泊学習再開に向けた外食摂食指導機会確保による校外での摂食機会を設け、指導の習熟を図った。

❷ スクールバス降車確認訓練を徹底した。また寄宿舎生の外出支援（計画・安全・金銭管理等）の個別指導を継続した。

❸ 危機管理マニュアルを改訂して防災訓練を２日間行い、取組み成果を「防災の橋」「防災事典」として全校配布した、

❹ 校長発令により計２回の事故発生に際して再発防止策（保護者への事故再現と説明、再発防止訓練）を講じた。

❺ いじめ・体罰防止、自殺防止教育推進会議による校内状況の把握と予防対策を積極的に推進した。

最重点目標７　感染症予防推進を含む安心できる保健体制と安全で美味しい給食提供の体制構築　自己評価　◎

数値目標　全関係者評価「感染予防も含め、安心・安全な体制が構築されている」　≧ ９５％　⇒　全関係者９２％

方　　策　保健・給食システム構築プロジェクト　＜主管：保健部＞

❶ 感染予防・拡大防止対応（衛生的な環境の確保、緊急想定訓練、情報発信：健光の橋全８５号の発行）を徹底した。

❷ 都規定を踏まえた専用車両運行及び呼吸器管理を含む医療的ケアの的確で安全な実施と啓発・発信した。

❸ 拠点校指定「医ケア児保護者付添い短縮化事業」では、約半数が５月末～６月前半までの付添に短縮できた。

❹ 安全で美味しい給食提供と楽しい給食タイム（例：行事にちなむ献立）が実現した。初期食シリンジ注入も進めた。

❺ 形態食の提供による個に応じた摂食指導を推進するとともに、アレルギー事故防止を徹底した。

最重点目標８　進路指導・地域支援・教育相談の充実　自己評価　◎

数値目標　関係者評価「進路指導や進路情報、地域支援の内容が伝わっている」　≧ ９０％　⇒　委員１００％

方　　策　相談支援プロジェクト　＜主管：支援部＞

❶ Ｂ部門：高等部募集対策の強化を含む都市型病弱校としての良さ創出と積極発信　⇒ 別掲２

❷ 入学相談を含む教育相談や地域支援、進路等に関する情報の一元化を基盤とした組織対応の推進

❸ 個々の希望と特性に即した進路指導を進め、進路希望（４大学合格、１専門学校合格、１企業就労、他）が叶った。

❹ 卒後支援・生涯学習支援として、卒業生の自立支援の為の校内販売機会提供拡大や同窓会総会の再開実現を支援した。

❺ 学校ＰＴＡ及び各種別の広域ＰＴＡ（全国・関東ブロック・都組織を含む）活動に積極協力した。

最重点目標９　ライフ・ワークバランスを踏まえた、働きやすく魅力的な職場環境の創出　自己評価　▲

数値目標　関係者評価「働き易く効率的な執務環境整備が進んでいる」　≧　８０％ ⇒　教職員６２％、委員８６％

方　　策　環境改善プロジェクト　＜主管：総務部、教務部、学習指導部、経営企画室＞

❶ 新北棟開始年度として「勤めたくなるオフィス」＝働きやすく効率的な執務環境を整備した。

❷ 「電話コーナー・打合テーブル・保護者面談ソファ」等を導入し、相談や打合せの効率化と見える化を実現した。

❸ 職場環境の改善（出張販売店の受入れ拡大、全自動コーヒーマシン導入等の試行導入）を進めた。

❹ 新システムによる時間外勤務時間数の自己把握に基づく自己管理の奨励及び校務の効率化を図った。

❺ メンタルヘルスやライフプラン構築への支援として専門家相談、ミニセミナー、産業医面談を実施した。

最重点目標１０　研究目標：併置の良さを生かし、社会に即した学園教育の魅力開発と発信　自己評価　◎

数値目標　研究成果物提供者からの評価「大いに役に立った」≧９５％ ⇒ 被提供者１００％、全関係者９２％

方　　策　全国公開研究会における研究開発成果の発信プロジェクト　＜主管：学習部＞

❶ Ｓ部門：学習指導アドバイザーを活用した認知を高める基礎学力向上の成果をワークショップ型で発進した。

❷ 両部門：全校読書活動の実際（施設・管理システムの整備と読書活動の創意工夫）を実践発表した。

❸ Ｓ部門：医ケアに関する付添い短縮化事業、呼吸器管理、専用通学車両による学習基盤整備を実践発表した。

❹ 両部門：授業者支援会議で得た成果を基にした授業者支援会議セミナーを実施し、実演を通してノウハウを提供した。

❺ 両部門：本校で実践研究する分身ロボットも含めた遠隔授業やプログラミング学習とGIGA端末活用を発表した。

❻ Ｂ部門：病院内教育としての分身ロボットを活用の工夫、読書活動・芸術的活動の工夫に関する実践研究を継続した。

❼ Ｓ部門：新たな作業学習の開発として、社会状況に応じた作業種拡大の一環として光明カフェを開店した。

❽ 両部門：アートギャラリーを継続的に活用した共同制作や個々の作品発表等の芸術活動を継続した。

＜光明学園教職員としての行動指針＞

教職員個々の基本的行動指針　＜経営会議・企画調整会議＞

① 全教職員として学園生の規範モデルとなる行動実践

⇒ 体罰根絶を大前提とした人権尊重を推進した。（クリーンデスクを含む個人情報保護の徹底）

② 全光明学園　ビジネス・コードを踏まえた学園教職員として誇りある行動実践

⇒ 朝の校長講話等を活用して社会人・教育公務員としての服務規律の徹底とマナー遵守を徹底した。

⇒ 200 人超の職場にあって、各種業務ルールを明確にして、効率的な業務遂行を図った。

⇒ ワーク・ライフ・バランスを意識したビジネススタイルの確立に務めた。

２　次年度以降の課題と対応策

（1）東京都特別支援教育推進計画（第１・２期）及び都教育委員会施策への積極的取組み

◆都推進計画に基づいた指定校事業や関係事業（例：「言語活動・読書活動の充実」「学習指導要領を踏まえたプログラミング教育の推進」「病弱教育におけるデジタルを活用した教育の充実」）に関しては経営報告（前述）を踏まえ、令和５年度経営計画には次段階の取組目標・内容を示す。（以下に記載例）

◎　指導要領知的障害各段階及び教科書に準拠した全体計画及び単元計画開発・集積・共用による効率化

◎　専門家を活用した学習指導要領への的確な対応（個別学習＜国・数基礎段階＞の日々の積上げ徹底）

◎　両部門：新学校図書館の開設準備、全校読書月間等による読書習慣定着

◎　両部門：小中学部の GIGA 端末を活用した ICT 教育の展開及び高等部の一人１台端末導入支援と活用

◎　両部門：オンライン学習・プログラミング学習、デジタルアート学習など ICT 教育の一層充実

◆医療的ケアに関する指定事業＜保護者付添い短縮化モデル事業拠点校＞他の成果を追究し、他校支援に活用する。

◆GIGA 端末の活用等をとおして、過去に指定を受けた情報教育研究校事業の成果を発信する。

◆時間外労働時間の低減に加え、働く手応えを感じ取れる業務開発や環境整備、到達点を共有できる組織運営を行う。

（2）中期計画を踏まえた専門性の向上に基づく教育指導の充実　※中期計画は令和４年度学校経営計画参照

◆進路指導の充実

肢：学習指導要領（知的障害各段階）に基づく年間・単元計画を開発共有し、準備業務の的確・効率化を図る。

病：教育課程改善の４年目の実践を展開し、その成果を学校の魅力として募集活動に反映させる。

全：本校の実態に即し、中高生の進学・就職志望に対応した「総合的な探究の時間」の指導事例を蓄積する。

◆基礎学力の獲得を基盤とした自己肯定感の醸成と個性ある才能の発揮

全：学校図書館整備とともに、家庭貸出奨励及び授業と連動した図書活用など全校で多面的展開を進める。

全：スポーツ表彰・アート表彰・書道表彰・読書表彰・模範学園生表彰等を継続し、輝く個性を見出す。

◆第７回全国公開研究会を到達目標として日頃の指導実践の成果を一層発信する。（医ケア事業、遠隔教育を含む）

（3）令和４年度学校経営報告及び学校評価に基づく対策

◆開校第２世代ミドルリーダーを大幅に加えた運営体制に移行し、効率的に業務を遂行できるシステム開発を進める。

◆時間外労働時間の低減を一層進めるとともに、働く手応えを感じ取る事ができ、到達点を共有できる運営を行う。

（4）人材育成の継続・充実

◆今後の併置校運営を担うリーダー人材を育成する。（教育管理職、４級職、主任教諭挑戦者の育成）

◆将来の教員リーダーとなるために、各種委員への推薦、派遣研修への選考挑戦を奨励・支援する。

◆主幹・指導・主任教諭の人材活用を推進する。（主幹・主任ミッションリストの校内公開による到達目標の共有）

◆教員志望者応援講座及び初任者パワーアップ講座を開催して、将来の特別支援教育を担う若手人材を育成する。

◆介護等体験や見学や体験学生向けに「保護者談話」を組み込むなど特別支援学校教員のやりがいが伝わるように企画を刷新する。また、特別支援学校教員志望者増に向けて、高校・大学段階からの情報提供と支援を行うる。

※各項目に関する関係者（外部委員、教職員、保護者）評価の詳細は、本校ＨＰに掲載の「令和４年度 学校評価集計結果と今後の方針」、「学校評価 総括」及び「学校評価 児童・生徒評価 集計結果と回答」を参照。